

農空間

第68号

発行所
福島県農林水産部
農村振興課

【特集】多面的機能支払制度の効率的な推進について

近年、農村地域では、過疎化、高齢化等に伴い集落機能が低下してきており、地域の共同活動によって支えられている多面的機能の維持・発揮に支障が生じています。また、水路等の保全管理に対する担い手農家の負担も懸念されています。

このため、平成19年度に地域の農業者等が取り組む共同活動を支援する農地・水・環境保全向上対策(現多面的機能支払交付金)が創設されました。

福島県内では、平成27年度実績で53市町村、1,287組織において、県内農振農用地面積の約40%にあたる57,884haで取り組まれています。

将来にわたって地域資源の保全と多面的機能の維持・発揮を図るため、新たな取組の拡大と既取組組織の活動継続に向けた支援を行うため、制度の更なる周知を図るため市町村担当者会議や方別研修会等を開催しています。また、広域組織化による体制の強化、外部委託を活用した事務負担の軽減や現地確認システムの活用による現地調査の効率化などの取組を進めています。

特に、広域組織化については、100ha以上の規模を持つ大きな活動組織にすることで、申請手続きなどを効率的に行うことが可能となるほか、施設の長寿寿命化に対する優遇措置、多様な人材による活動の拡大、持続的な組織の確立など、一部組織で活用が始まっています。

今後も、地域が一体となって農業・農村の持つ多面的機能の維持・発揮のため、広域組織化や外部事務委託などを含めた共同活動への支援を行っていきたく考えています。

なお、事業内容や活動に対する支援については、各農林事務所農村整備部や市町村担当課までお問い合わせください。

また、外部組織への事務委託は、経理や活動記録の整理等をJA、土地改良区や団体職員OBなど、事務処理を適切に行える方に委託するもので、委託の費用を集落に交付される交付金により充当することで、現在100組織において行われています。

さらに、市町村や活動組織の現地調査のため、農地の目録や面積などの確認作業を携帯端末で行うことができるシステムが導入されています。

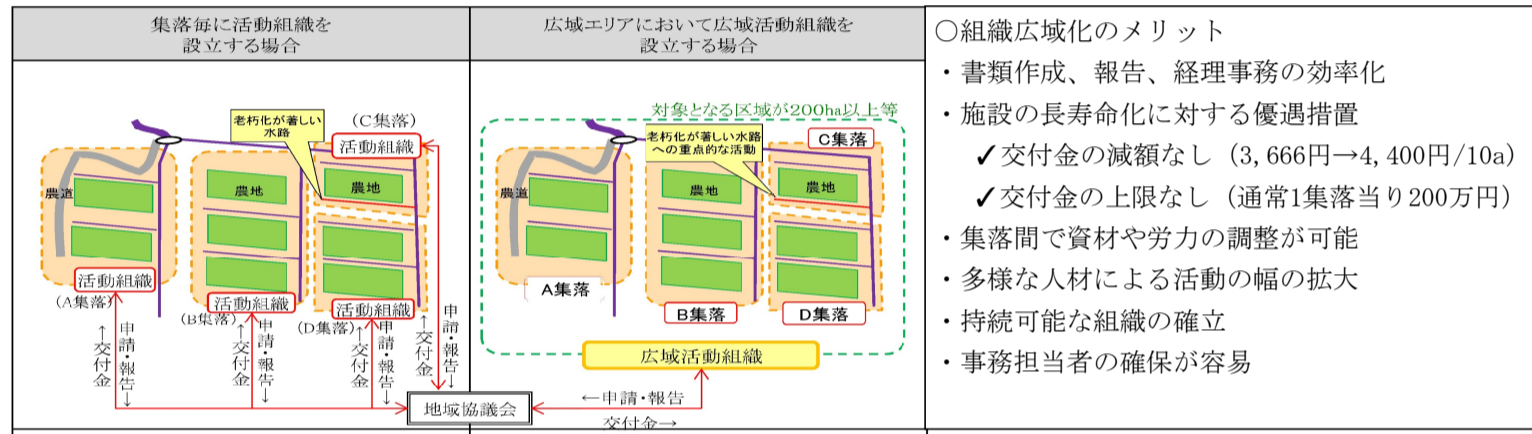
広域組織の設立状況

管内	市町村名	面積
会津	西会津町	986ha
会津	柳津町	440ha
会津	金山町	164ha
相双	広野町	210ha
相双	川内村	393ha
いわき	いわき市(三和)	401ha
いわき	いわき市(愛谷堰)	281ha
合計	6市町村7組織	2,875ha

事務の委託先

土地改良区	63組織
J A	20組織
コンサルタント	17組織
合計	100組織

また、外部組織への事務委託は、経理や活動記録の整理等をJA、土地改良区や団体職員OBなど、事務処理を適切に行える方に委託するもので、委託の費用を集落に交付される交付金により充当することで、現在100組織において行われています。



組織広域化のイメージ



整備後の田んぼで実る稲穂



権利者会議の様子

事業の完了により、担い手農家への集積向上率は50%を超える予定で、権利者の皆様からは、「以前より農作業が楽になった」などの声をいただいています。

県内からの便り

未来へつながる一歩

経営体育成基盤整備事業坂本地区は、白河市の東部(旧東村)に位置する水田地帯で、平成23年度から35.9haの区画整理、農道・農業用排水施設等の整備を行い、今年度事業完了を迎えることとなりました。

去る8月25日の権利者会議も無事終了し、現在は、換地処分に向けた最終的な処理を進めているところです。

【農村振興課】

地区の規模は決して大きくありませんが、事業着手以来、地域の皆様のご理解とご協力のもと、数々の問題や課題を乗り越えることが出来ました。

今後は、残された補完工事をしっかりと行うとともに、農業経営の体質強化に向けた体制づくりなどの支援に取り組んでまいります。

【県南農林事務所農村整備部】

興にかかせないものです。これからも頑張ってください。「農産物を買って支援することしかできないが復興に協力したい。」「最近ではニュース等でも復興の様子が報道されるので、このように復興の様子が分かって良かったです。」などの声が寄せられました。

【農村振興課】

農林水産省「消費者の部屋」特別展示を開催しました

平成28年9月5日から9日にかけて、農林水産省「消費者の部屋」において「岩手県・宮城県・福島県 農業農村復旧復興展」を開催しました。

東日本大震災による被害状況、5年間の農業農村の復旧状況、復興への新たな取り組みや各県からの応援隊の活動状況等、パネル展示を行いました。

開催3日目には、復興米配布開始式を行い、県農村計画課菊地課長をはじめ各関係課長から復旧復興支援への御礼をするにとともに三県の復興米と農産物や観光のPRグッズを配布しました。



三県課長と来場者のみなさん

復興展では5日間で延べ900人を超える来場者があり、「東北3県の復興は、農業の再



各県復興米の配布の様子



福島県のパネルを眺める来場者



地域に根ざした水土里ネットワーク
—愛谷堰土地改良区—

第14回 治右衛門の堰「あじさい祭り」施設巡りバスツアー
【愛谷江筋はどこから流れてくるのかな?】が、平成28年6月28日(火)、いわき市立夏井小学校4年生児童を対象に開催されました。土地改良施設をバスで巡りながら、その役割や保全活動について説明すると共に、農業農村が持つ多面的機能に関する理解促進を図ることを目的として実施しております。

イベント内容は、少しずつ変更していますが、毎年1回あじさいの花咲く頃に開催し、14回目を数えることとなりました。行程は、源門である愛谷堰頭首工(写真①)、用水路の除塵施設(写真②)、湛水防除事業排水機場(写真③)と順に巡り、かんがい用水が、どこから、どのようにして、流れてきて、水稲に使われ、そして、排水されるのかを現地にて子供達に確認してもらいました。

当地域の水田に対し、当たり前のように、安定供給される農業用水は、今から340年前に造られた用水路で、受益地より、10キロメートル上流の夏井川に設置された全可動式ローラーゲート(全長106メートル)により取水され、いわき駅周辺の繁華街を暗渠(780メートル)で通り、受益地に入る前に、除塵機で、ほとんどのゴミを除去してありますが、いわき市民がどれだけ知っているのでしょうか?かんがい施設は、農業水利施設の要であり、土地改良区として、このような取り組みを継続することで、組合員ばかりでなく、その家族、農振地域の多くの住民にその役割等を知って頂く努力を続けていきたいと思えます。最後に、毎年、県いわき農林事務所、いわき市農地課、県土

地連、企業会員、個人会員の皆様のご協力を頂いていることに改めて、感謝を申し上げます。



①愛谷堰頭首工を見学する夏井小児童



②除塵施設と見頃を迎えたあじさい



③排水機場で熱心にメモを取る子供達

福耕支援隊情報

相双農林事務所農村整備第一課で災害復旧業務にあたる福耕支援隊職員を紹介いたします。当課では、被災した海岸の復旧工事や津波被災からの復興を目指す現場整備を行っており、支援隊員の協力を得ながら復旧工事設計や監督監理に取り組んでいます。

今シーズンには、度重なる台風の影響により波浪や強風に見舞われて工事が中断することが多く、工期内の完成を目指した綿密な工程管理が要求されています。

このような自然環境の制約が厳しい現場において、北海道の岡部主査(滋賀県)、猶主査(山口県)、9月まで在籍・10月から岡本主査)の4名が昼夜を問わず相双地方の復旧復興に取り組んでいます。



消波ブロック出来型確認中の岡部主査(右)



過積載点検中の猶主査



ほ場整備工程会議中の穴倉主査(左端)



海岸で段階確認中の井上主査(左)

うつくしま・みずウオーク三春大会が開催されました

「水土里を育む普及促進事業」の一環として、うつくしま・みずウオーク三春大会まなぶんコースが9月24日(土)に開催され、三春ダム周辺の散策し、滝桜、三春南部揚水機場や三春ダムの見学を行いました。

滝桜前では観光ガイドが地元歴史や自身の経験をもとに滝桜について詳しい説明を受けました。揚水機場では水の使い方や受益地への供給過程等の説明

があり、参加者は興味深そうに施設を見学していました。ダム堰の見学では放水の様子も見られ、迫力満点の姿に感銘を受けている様子でした。その後もダム周辺の散策を続け、最後のゴール地点の三春の里田園生活館では、地元農産物をふんだんに使った三春汁が振る舞われました。一杯は参加者にしか得られない特別な味でした。【農村振興課】



ダムの説明に聞き入る参加者

新規採用職員の紹介

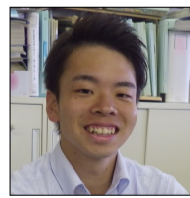
- ① 所属・氏名
- ② 出身地
- ③ 学生時代の専攻
- ④ 志望動機・担当業務(担当事業名・地区名)・抱負

① 農村整備総室
農村振興課
本多 隆太

② 福島市

③ 農学科

④ 生まれ育った福島県の震災復興に尽力したいと思志望しました。農業農村整備事業の広報、基盤整備促進事業等の予算編成・要求・執行状況の把握を行うつもりです。誰からも頼られるような県職員となり、より良い福島を創りたいと思います。



① 県北農林事務所
農地計画課
茂木 さやか

② 群馬県前橋市

③ 環境都市工学科

④ 農業土木職員として働く上で最もやりがいのある職場だと考え、志望しました。県単基幹水利施設ストックマネジメント事業伊達西根堰地区を担当しており、水路の補修等を行っています。日々の業務の中でも常に学ぶ姿勢を心がけ、一人前の県職員として福島市の復興復興に尽力したいと考えています。



① 県中農林事務所
農地計画課
齋藤 祐揮

② 神奈川県横浜浜市

③ 情報メディア学科

④ 両親の出身が福島県であり、幼少期



から馴染み深い場所に何かの形で貢献したいと思志望しました。国土調査、ふくしまの農普及促進事業、砂利採取などを担当しています。「巧遅は拙速に如かず」の精神で、スピード重視の業務を心掛けております。上司は非常に優秀な方々ですので、トライアンドエラーの積み重ねで日々精進していきます!

① 会津農林事務所
農村整備課
佐藤 良平

② 福島市

③ 共生環境課程

④ 福島市の復興の力になりたいと思志望しました。ストマネ事業の関山地区とため池整備事業の天屋地区、八神沢地区を担当しており、水路とため池の改修を行っています。地元の声をよく聞き、臨機応変に対応できる職員になりたいと思います。

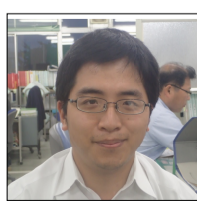


① 相双農林事務所
農村整備第一課
山崎 貴大

② 福島市

③ 数理科学科

④ 農業の根本である農村整備に携わりたいと思志望しました。海岸災害復旧事業小沢地区を担当しています。県職員として、今後多くの事を吸収していきたいと思しますので、よろしくお願いたします。



編集後記

農林水産省で開催したパネル展では、福島県外の方に、復興の状況を見てもらい、多くの方々から、ご意見や励ましの声をいただきました。非常に貴重な経験となりました。その声を忘れずに復興に関する業務へとつなげられたいと思っております。今号も記事の提供ありがとうございました。皆さんの想いの詰まった農空間をお楽しみください。

【編集担当者 R・H】

『農空間』とは... 農村において繰り広げられる農業の営み、それを支える農地や水、人々の生活、そして、美しい自然に囲まれ長い間に培われた伝統・文化などが溶けあった空間のことです。